

AI AGENTS IN THE ENTERPRISE / JAPAN EDITION

企業AIエージェント 最前線

日本企業の実数字で見る、導入率・使われ方・現場の4事例

日本企業の生成AI活用率、34.5%

34.5%

生成AIを活用している
日本企業の割合

- 従業員1,000人超は63.6%、小規模企業は28.0%——規模による差はまだある。
- 総務省の調査でも、企業の利用率は49.7%。前年の42.7%から着実に増加。
- つまり、もう「一部の先進企業だけ」の話ではない段階に来ている。

出典: 帝国データバンク「生成AIに関する企業の動向調査」(2026年3月) / 総務省「令和7年版情報通信白書」

業種別に見る活用率



出典: 帝国データバンク「生成AIに関する企業の動向調査」(2026年3月)

実際に使われている業務のトップ3

45.1%

文章の作成・要約・校正

圧倒的に最多。自律的なエージェント作業より前に、日常の文書作業が主戦場。

21.8%

情報収集

リサーチや調べ物での利用。

11.0%

企画のアイデア出し

壁打ち相手としての利用が3番手。人の発想を広げる使い方が定着しつつある。

出典: 帝国データバンク「生成AIに関する企業の動向調査」(2026年3月) ※活用企業の86.7%が「業務に効果あり」と回答

効果が一番実感しているのは、実は小規模企業

29.7%

小規模企業のうち
「大いに効果」と回答した割合

- 大企業の「大いに効果」は20.8%——小規模企業の29.7%を下回る、意外な逆転。
- 理由は、大企業は業務が複雑で変化を実感しにくく、小規模企業は少人数の改善がそのまま体感できるから。
- 規模より、「どこまで具体的な業務に組み込んだか」の方が効いている。

出典: 帝国データバンク「生成AIに関する企業の動向調査」(2026年3月)

パナソニック コネクト：78.8万時間を削減

78.8万 時間

2025年度、AI活用で削減した
総労働時間

- 総労働時間の3.4%を削減。削減時間は前年度比で2倍に拡大。
- 2030年までに、総労働時間の10%削減を目標に設定。
- 狙いは、「質問に答えるAI」から、社内システムと連携して「業務を任せるエージェント」への進化。

出典: パナソニック コネクト公式発表 (2026年7月)

りそな銀行：営業の「属人化」に切り込む

顧客対応

2025.4

インサイドセールス部門に
本格導入を開始した時期

- 通話後の後処理を自動書き起こしで短縮し、架電件数の増加を狙う。
- LLMによる応対品質評価で、「アポ獲得率の高い会話パターン」を可視化しチームに共有。
- 狙いは、個人の勘に頼っていた営業品質を、データで底上げすること。

楽天：AIが顧客データから「売れる提案」をする

個客への提案

255億円
→315億円

AI活用による利益貢献額

(2025年度実績 → 2026年度目標)

- AIコンシェルジュ経由の平均注文金額は17%増加、購入決定までの時間は41%短縮。
- 1億人超の会員データから、ざっくりした要望でも意図をくみ取り商品を提案する。
- カスタマーサポートAI「Raptor」だけで、2026年度は43億円の利益向上を見込む。

ソフトバンク：LINEMOの問い合わせ解決率が97%に

顧客対応

83%→97%

AIエージェント導入による
LINEMOの問い合わせ解決率の変化

- 顧客満足度も、74%から93%に向上。
- 2026年7月、米Sierra社と戦略的パートナーシップを締結し、対話型AIエージェント基盤を国内独占販売。
- 今後は、ソフトバンク・ワイモバイルやグループ会社への展開も検討中。

出典: ソフトバンク公式発表 (2026年7月)

ディープフェイク会議で、38億円が消えた

AIリスク

38億円

香港企業が、ディープフェイク会議詐欺で
1度に失った金額

- CFOと同僚の顔・声を、公開動画から合成したディープフェイク。ビデオ会議に「本人」として参加させた。
- 誰も疑わないまま、社員が15回に分けて送金を実行——気づいた時にはすべて手遅れだった。
- 国内でも、IPA「情報セキュリティ10大脅威2026」にAI関連リスクが初ランクイン。ディープフェイク詐欺は他人事ではない。

出典: 香港・大手企業の被害事例 (2024年) / IPA「情報セキュリティ10大脅威2026」

今日のポイント

01

効果実感は「規模の逆転」が起きている

活用率34.5%はすでに珍しくない水準。効果を一番感じているのは、実は小規模企業。

02

現場ではすでに数字が動いている

パナソニック・リソナ・楽天・ソフトバンク——共通するのは「具体的な数字」と「次の目標」を持っていること。

03

便利さとリスクは同時に進む

香港企業はディープフェイク会議で38億円を失った。AIは「効率化の道具」であると同時に、「攻撃に使われる武器」にもなる。

01

すでに900社が導入。対話型AI面接サービス「SHaiN」は2025年10月時点で導入企業900社を突破し、1日1社ペースで純増中。

02

24時間365日、ばらつきなく話せる。候補者はスマホやタブレットでいつでも面接でき、先入観のない一次評価がすでに実現している。

03

AIエージェントは「質問に答える」だけでなく、実際に手を動かして業務を代行する。人間よりはるかに多くの実行データに触れるからこそ、業務理解の深さは人とけた違いになっていく。

**私は、AI面接官が
当たり前になると考えます。**

ご清聴ありがとうございました